



島根大学学術情報リポジトリ

附属図書館職員研修会 (xx学部説明会リハーサル)

2006.10.25

学術情報リポジトリとは？

- 島根大学学術情報リポジトリは、本学の研究者による研究教育の成果物を蓄積・保存し、学内外へ向けて無償で発信するインターネット上のデータベースです。
- リポジトリに蓄積し、提供される学術研究成果は、学術雑誌掲載論文、紀要論文、単行図書、学位論文、学術関係会議資料など様々な学術研究成果物の一次情報（論文等の本文）が対象

登場の背景

- 学術雑誌価格の高騰が、学術雑誌の講読維持を困難にさせつつある
- 学術情報の流通を商業出版社から、研究者自身の手に取り戻すオープンアクセス運動が世界的に巻き起こる
- オープンアクセス雑誌と機関リポジトリがその2大潮流に

どのようなメリットがあるか？

学内研究者にとって

- 学術研究成果の可視性の向上
 - 研究インパクト(影響力)の向上
 - 論文の被引用率のアップ
- 学術研究成果の永続的集積・保存
 - 研究業績のアーカイブとしての活用

どのようなメリットがあるか？

大学にとって

- 説明責任の遂行
- 産学連携・地域貢献の推進
- ブランドイメージの向上

国内外の状況

○ 世界の状況

アメリカ、イギリスを始め、世界各国に750を超えるリポジトリが公開されている → 世界的規模で増加しつつある

○ 国内の状況

国立情報学研究所のCSI事業(次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業)による助成

H.17年度 ... 19大学(現在20の大学・機関が公開)

H.18年度 ... 57大学(国立47、私立10)

世界のリポジトリ

Total 756

ドイツ68

スウェーデン27

英国79

オランダ21

カナダ32

フランス33

イタリア25

日本20

米国200

スペイン18

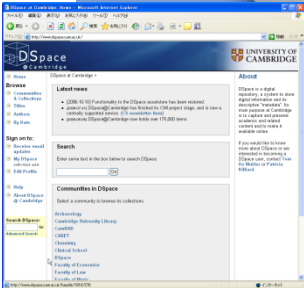
インド23

オーストラリア29

ブラジル45



University of Toronto (カナダ)



Cambridge (英国)



Queensland University of Technology (オーストラリア)



北海道大学



MIT (米国)

2006年10月現在

<http://archives.eprints.org/> による

島根大学学術情報リポジトリの概要

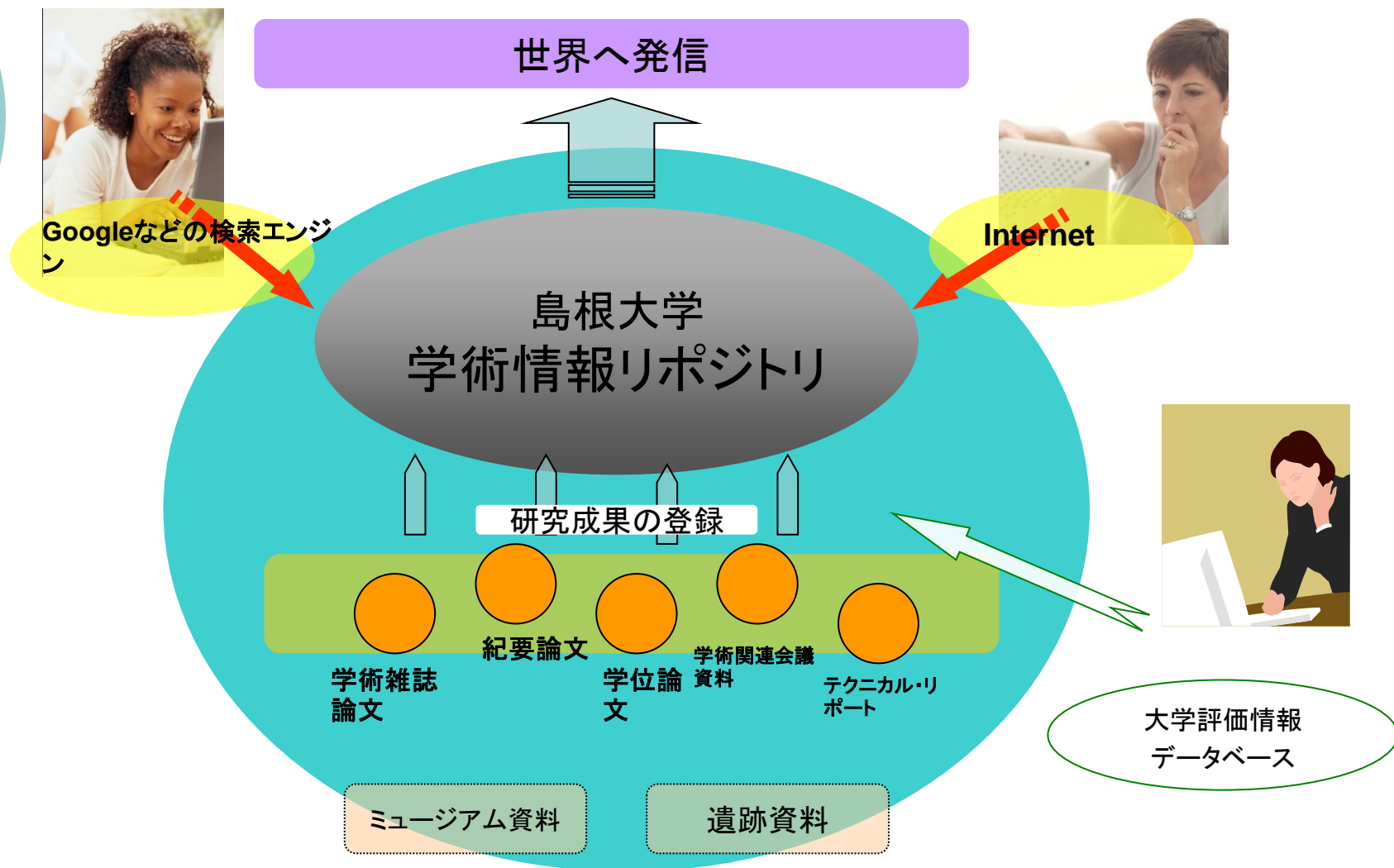
今年度

- 「大学評価情報データベース」との連携による登録作業の省力化
- 既存の「研究紀要論文全文データベース」との連携によるデータ登録の効率化

次年度

- 大学ミュージアムのコンテンツのリポジトリシステムによる公開
- 「遺跡データベース」搭載コンテンツのリポジトリシステムによる発信

島根大学学術情報リポジトリの概要



登録するコンテンツは？

- 学術雑誌論文
- 紀要論文
- 学位論文
- テクニカル・リポート
- 学術関連会議資料(予稿集、発表資料、会議録)
- 遺跡資料
- ミュージアム資料
- その他(研究・教育の過程で生産された学術情報)

著作権について(1)

- 著作権の帰属
 - (1) 著者本人及び共著者
 - (2) 出版社/学協会

著作権について(2)

著作権が著者に帰属する場合

- 著者自身の許諾で登録可。共著者がいる場合は、共著者からも許諾を得る。

学術雑誌論文の場合

- 欧米の出版社/学会の94%が、リポジトリへの論文登録を認めている。
- 国内の出版社/学会は、方針が未確定のところが多い。

紀要論文の場合

- 本学が発行する研究紀要に投稿された論文については、リポジトリへ登録することについて、包括的な許諾を得ている。

著作権について(3)

- 論文をリポジトリから公開できるかどうかの判断

- 図書館で出版社/学協会の許諾状況の情報を提供

- 最終的に図書館で調査し、公開可否の判断を行う

登録の流れ

研究業績の入力

大学評価情報データベースに研究業績を入力



著作権の確認

当該論文をリポジトリから公開可能かどうか、出版社等の許諾状況を確認。



学術研究成果コンテンツの登録

予め電子化しておいた学術研究成果のファイルをリポジトリに登録。登録した学術研究成果には、「学外公開／学内限定公開／非公開」のいずれかの公開条件を付与することができる。



世界へ発信

大学評価情報データベース

大学評価情報データベース
(研究業績の入力)



島根大学
学術情報リポジトリ

学術情報リポジトリ(学術研究成果コンテンツの登録)

何をすればよいか？

大学評価情報データベースに入力された(または入力予定の)研究業績に対応した学術研究成果の電子ファイルをお手許に保管しておいてください。

学術雑誌論文の場合

学術雑誌に掲載された論文の場合、電子ジャーナルとして公開されている出版社版のPDFファイルや別刷からPDF化したものの利用は認めず、著者原稿の利用は認める出版社等が多い。査読済みの著者最終原稿の電子ファイルを登録する。

紀要論文の場合

研究紀要全文データベースに登録されたPDFファイルをそのまま利用できます。

その他の学術研究成果物

著者の最終原稿の電子ファイルを登録くださるようお願いします。

スケジュール

- ~12月 システム構築
- 12月~2月 コンテンツ収集
- 2月 初期データの構築
- 3月 試験公開
- 4月 本公開

終わりに

研究成果の保存と公開の ために、登録をしましょう

お問合せ

島根大学学術国際部 図書情報課

TEL:0852-32-2730, 2750

FAX:0852-32-6089